

令和5年度当初予算案の概要

第387回宮城県議会(定例会)

令和5年2月

宮 城 県

I 予算編成の基本的な考え方

VII 計数資料

II 主な事業

VIII 主要項目

III 当初予算案の規模

IX 提出予定議案一覧

IV 歳入の状況(一般会計)

V 歳出の状況(一般会計)

VI みやぎ財政運営戦略(第3期)の取組状況

※表示単位未満で四捨五入しているため、合計額や割合が一致しない箇所がある。

I 予算編成の基本的な考え方

- 「新・宮城の将来ビジョン」がスタートしてから3年目を迎える令和5年度は、本格的な人口減少局面を迎える中、地域経済・社会の持続性を確保し、大規模化・多様化する自然災害に的確に対応することに加え、依然として県民生活や地域経済に影響の続いている新型コロナウイルス感染症への対応が必要。また、これまで、我が県の総力を挙げて、東日本大震災からの復旧・復興に全力で取り組んだ結果、復興まちづくり等のハード事業については概ね完了したが、被災者の心のケアなど、その実情に応じたきめ細かなソフト対策については、今後も継続的な取組が必要。
- こうした状況の下、令和5年度当初予算では、「宮城の将来像」の実現に向け、富県躍進を志向する取組の推進、若者の県内定着や子ども・子育てを社会全体で支える環境整備など、次の世代を育成・応援する事業を重点的に予算化。また、あらゆる分野でのICTなどデジタル技術のフル活用に向け、社会や生活のこれまでの在り方を変容するDX(デジタル・トランスフォーメーション)への投資に予算を措置。併せて、頻発化・激甚化する自然災害に備え、防災・減災に向けた対策への適切な予算措置を行うとともに、脱炭素社会の実現に向けた対策や、復興の完了に向けては被災者の心のケアなど実情に応じたきめ細かな対策を予算化。
- 新型コロナウイルス感染症対策については、医療提供体制や検査体制など、感染拡大防止対策も含め、必要な対策への予算を確保。
- この結果、令和5年度一般会計当初予算は、平成24年度当初予算から12年連続で1兆円台を超え、1兆792億円(前年度比▲354億円、▲3.2%)を計上。
- 歳入面では、県税については景気が緩やかに持ち直していることなどを背景に、3,074億円(前年度比+22億円、+0.7%)を計上するとともに、地方交付税については県税の伸びなどを踏まえて、1,535億円(前年度比▲19億円、▲1.2%)を計上。また、財源確保に向けては、通常事業の徹底した見直しや特別会計・基金の資金活用など、「みやぎ財政運営戦略(第3期)」に基づく歳入歳出両面にわたる対策を計画的に実施した上で、財政調整基金を130億円取り崩し、予算を編成。
- 通常分(一般会計)は1兆568億円(前年度比▲300億円、▲2.8%)で前年度に引き続き1兆円台を計上。
- 震災対応分(一般会計)は224億円(前年度比▲54億円、▲19.5%)を計上。なお、平成22年度以降の震災対応予算の累計は6兆5,949億円(総会計)。